

キャラクター名  
アイリス・クレゼンバー・カンジェワ・ルイ

プレイヤー名

シンドローム	サラマンダー ウロボロス		ワークス	FHエージェント3	カヴァー	
	オプション		年齢	17	性別	女性
覚醒	探求	衝動	妄想	初期侵食率	55	%
出自		経験		邂逅		

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	69
肉体	3		0	5		8	行動値	35
感覚	1		0			1	(非装備時)	35
精神	3	1	3	26		33	戦闘移動	40
社会	1		0			1	全力移動	80

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	4	1	交渉		
回避			知覚			意志		1	調達		1
運転:			芸術:			知識:		2	情報:	FH	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
ファーストシーズン	RC	33r+5				7+10dx+1@7/攻撃力515+10+9+15+1/コスト11 ベース
セカンドシーズン	RC	33r+5				6+10-1dx+1@7/攻撃力27+10+9+5+3+15+15/コスト18
よろしくお願ひします!	RC	33r+5				7+12+3dx+1@7/攻撃力34+12+12+5+4+18+18/コスト18
私の名前は――	RC	33r+5				8+12+3dx+1@7/攻撃力34+12+12+5+4+18+18/コスト18

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
ストレンジフェイス	
インフィニティエクリプス	
デモンズシード	
メモリー[カンジェワ・ルイ皇国]	
メモリー[幼少時の記憶]	
メモリー[皆との思い出]	
FHメッセンジャー	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
春日恭二	P 命の恩人	N どこにいるの!		
思い人	P	N		
ユグドラシル	P 素敵な人	N		
謎のジャーム	P	N ｷｯｯ!!		
ルシファー	P 隣人	N 不安		
坪井	P いいお兄さん	N		
樋口	P 好奇心	N 無謀な人		

最大財産P: 4 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
極限暴走	1	常3	常時	至近	自身	自動	リミット	
効果: 与ダメ後の効果を暴走時も発動可能								
絶対零度	3	常3	常時	至近	自身	自動		
効果: 暴走中精神ダイスLv+1個								
螺旋の悪魔	5	3	セット	至近	自身	自動		
効果: 攻撃力Lv×3 暴走付与								
オーバーウォッチ	3	4	セット	至近	範囲	自動		
効果: 範囲内ダイス+3 シナリオLv								
氷の回廊	1	1	マイナー	至近	自身	自動		
効果: 戦闘移動[Lv×2]								
揺るぎなき心	5	1	マイナー	-	自身	自動		
効果: バッドステ[Lv+1] 暴走以外回復								
コンセ(サラマンダー)	3	2	Xジャー	至近	自身	対決		
効果:								
雷の剣	3	3	Xジャー	至近		対決		
効果: シーンLv回攻撃+5 同エンゲージ攻撃可能とする								
氷の塔	5	4	Xジャー	視界	範囲	対決		
効果: [Lv×3]範囲射撃同エンゲージ不可								
クロスバースト	3	4	Xジャー	-	-	対決	80	
効果: 攻撃力[Lv×4] ダイス-2								
集熱の弾丸	10	1	Xジャー	視界	-	対決		
効果: 攻撃力[Lv+2]								
飢えし影	10	1	Xジャー	視界	単体	対決		
効果: 攻撃力[Lv+2]								
プラズマカノン	3	4	Xジャー	至近	単体	自動	100	
効果: 攻撃力[Lv×5]								

「伝説を探しているの!」

彼女、アイリス・クレゼンバー・カンジェワ・ルイは皇女である。

「そして――素晴らしい恋をしたいわ!」

そして彼女は――誰よりも恋をしたい女の子であった!

幼少時代、王国が滅んだ。それこそ一瞬で、何かの拍子で、地図から、人々の記憶から、その名前が消失した。物心がつく前の出来事だったこともあり、彼女に何が出来るわけもなく人混みにもまれ――気が付くと、一人の青年が目の前に立っていた。

「邪魔だ、失せろ」

その時、彼女の心はときめいた(?)

ああ、この方が私を救ってくれた、声をかけてくれた、気にかけてくれた――

この人について行けば何か分かるかもしれない、王国を復興できるかもしれない、伝説を手に入れることができるかもしれない。恋を――知ることができるかもしれない。

そして現在、彼女はまた一年の月日を走り抜けることができた。



